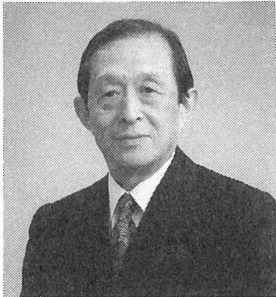


卷頭言



倫理の教育

関西医科大学 理事長
 京都大学 名誉教授
 関西医科大学 名誉教授

塚原 勇

最近、厚生省高官の贈収賄事件に関する報道が世間を騒がせている。しかし、すでに何年も前から政財界、行政、宗教、医療、福祉等広く各界で連続的に頻発してきた不祥事は、国民に失望と国の将来への不安感を抱かしめるに十分である。その原因に金権政治の影響をあげる人もいるが、国民の社会人としての倫理感も問題であろう。幼少時から初等・中等教育の期間、家庭や学校では上級学校への入学試験準備が異常に過熱し、児童、生徒に将来社会生活を送って行く上での基本的な規範を習得させることが不十分になっているのではないか。他人への優しさ、愛、寛容、正義等多くの徳目は、子供の頃から時間をかけて身につけて行くものであろう。

10年前に行われた臨時教育審議会（臨教審）の最終答申には、人格完成は教育の究極の目標であり、その目的達成には徳、知、体の調和のとれた教育が極めて必要であり、子供の自己努力の経験に基づく自発的な成長を期待しつつ、必要な基礎、基本をしっかりと教えることを教育の基本に据えねばならぬと記されている。同答申はまた、家庭を学校、地域社会と並ぶ学習の場としてとらえ、適時、適切なしつけを行うことは、家庭の果たすべき重要な義務であるときえ述べている。私もこの臨教審の指摘には賛成であるが、この答申を受けて10年後の現在、その内容が果してどれだけ家庭、学校、地域社会の現場に浸透しているか疑問である。

最近医学教育で強調されている医の倫理も、人間として必要な倫理という徳目の基本的な部分をすでに十分身につけた上に、専門的な倫理として据えられてこそ、一段と確実な成果が得られるものと私は考える。

それにつけても近年、学際諸学科の急速な進歩とともに医学、医療の進歩は加速され、臨床医学も自然科学の色彩を濃くしつつある。これからの医師は医学生物学の先端知識や化学、物理学、数学の基本的な知識を習得することが従来より一層大切となる。加えて情報学、人間行動学等の新しい科目の学習、国際性、深い教養等求められることが極めて多い。これらの要求を現在の医科大学の課程内で十分消化することは極めて困難である。私は、医科大学への進学者はアメリカで行われているように、4年制大学でこれらの一般科目等を余裕をもって習得し、卒業後選抜されて医科大学、医学部へ進む制度がよいと思う¹⁾。

参 考

- 1) 塚原 勇：大学時報 230号 96-98号，1993，日本私立大学連盟。